

性搾取と女性差別に抗う女性たちの活動拠点を作る

「女性人権センター」 建設プロジェクト

建設資金ご寄付のお願い

2022 年度、Colabo に対するデマ拡散をはじめとする深刻な妨害が発生したことを理由に「危ないから」と東京都と新宿区は Colabo のバスカフェを新宿・歌舞伎町から追い出しました。それは女性差別の思想を持つ人たちや性売買業者らの成功体験になり、その後、少女を取り巻く状況はこれまでになく悪化し、被害が拡大しています。新宿・歌舞伎町には全国各地、そして世界中から買春者が集まり、性売買業者が「女性支援」にも入り込む等、活動を活発化させています。声をあげる女性に対する攻撃はここ数年で激化し、女性たちを委縮させようとしています。



**2030年、日本一性搾取が深刻な街、新宿・歌舞伎町に「女性人権センター」を設立します。
建設費用として、10億円が必要です。**

**女性たちの力で、ゆるがない活動拠点を作りたい。そのために、協力を呼びかけます。
ご寄付で、「女性人権センター」設立に力を貸してください！**

「女性人権センター」で実現したいこと

性搾取・女性差別に抗う女性たちが出会い、つながり、共に活動していく女性運動の基盤となる

①男社会からの暴力に屈しない女たちの活動拠点

新宿・歌舞伎町に、女たちが、自分たち所有の、独立した活動拠点を持つことで、男社会からの妨害や嫌がらせに邪魔されず、怯えずに活動できる場所を作る。

②虐待や性搾取のなかにいる少女たちと繋がり、支える活動拠点

虐待や性搾取のなかにいる少女たちが暴力から逃れ、安心して過ごせる場所を得て、時間をかけて傷をいやし、他者や自分自身への信頼を取り戻して回復していく、女性の尊厳を守る活動の拠点とする。

③性搾取や女性差別、女性の人権に関する学習・交流拠点

性売買・性搾取の実態、女性の人権について学んだり、互いの経験や痛みを共有し、交流できる場を作り、女性差別に抗うつながりがうまれる拠点とする。

④若手活動家の活動拠点

新たに人権活動を始めたいと考える女性たちが集い、事務所を置くことができるようにし、暴力に怯えずに活動できる場を作る。

「女性人権センター」イメージ

1 階

Tsubomi カフェ&物販

Colaboとつながってパティシエになった女性のケーキ、少女たちがアルバイト
10代女性無料の夜カフェタイム（少女に対する食事・物品提供等）
女性の人権に関する書籍やグッズの販売、イベントの開催



- 街にいる少女たちがお腹を満たし、見返りを求めない大人とつながるきっかけの場
- 少女や女性たちの就労支援の場
- 市民が利用でき、性搾取や性差別の問題に触れるきっかけの場

2 階

反性搾取ライブラリー

「私たちは『買われた』展」の常設展、証言映像
女性差別に抗う女たちの闘いの歴史、各国の法律・支援や運動に関する資料
学習会等イベントの開催



- 性売買・性搾取の実態、女性の人権に関して学び、交流できる場
- 女性を処罰の対象とする売春防止法からの脱却、買春禁止法制定に向けた運動の基盤
- 国際社会との連帯づくりの場

■日本には、性搾取の実態を学べる資料館等がなく、児童買春を経験した少女たちの声を伝える「私たちは『買われた』展」は大きな反響を呼んだ。また、女性たちが受ける差別や暴力について、安全に話ができる場やつながりを求める声を多く聞いてきた。そのため、性搾取・女性差別に抗う様々な活動団体がイベントや学習会を開催できる場にもする。

3 階

若手活動家の拠点

貸し机やポスト（住所を置ける）、コワーキングスペース、プリンター
ミーティングルーム、自活センター（性売買を経験した女性たちが繋がり、
経験や時間を共有し、生活や就労に向けて商品開発等を行う。韓国では
脱性売買したい女性向けに性売買防止法に基づき全国に設置されている）



- 女性の人権問題に取り組む若手活動家を支える拠点
- 性売買から抜け出したいと考える女性たちが、その後を生きていくための力を共につけていくことのできる場

■女性が人権活動をはじめようとしたとき、ノウハウがわからなかったり、同じ思いを持った女性たちとつながることが容易でなかったりする。また、団体を立ち上げた際に、代表住所を狙ったストーカー被害等、身の安全にかかわる被害も起きている。そこで、新たに人権活動を始めたいと考える女性たちが集い、事務所を置くことができるようにし、安心してミーティングや活動ができる場を作る。

■日本では、性売買を抜け出したい女性たち向けの支援が乏しいため、その実践として自活センターを開設し、今後の脱性売買支援のモデルとなる。

4 階

Colabo（支援の拠点）

フリースペース、事務スペース、ミーティングルーム、ベッドルーム、シャワー、倉庫
少女向けの相談所+脱性売買相談所「KEY」

- 街にいる少女たちがほっと一息つける、駆け込める自分たちのセーフスペース
- お腹を満たし、見返りを求めない大人との関係づくり
- 生活に必要な情報、物品・食品を提供
- 緊急相談
- 病院・役所等への同行
- 医師や弁護士等専門家との連携
- シェルターでの保護、居住支援
- 生活支援、就労支援、学習支援、子育ての相談等
- Colabo とつながる少女や女性たちによるサポートグループの活動



5 階

シェルター

2LDK～3LDK の居住用物件、テラス（BBQ、野菜や花を育てる）

- 緊急時の宿泊、保護（暴力からの避難、住むところがない等）
- 一時的な休息（DV や虐待等から一時的に離れたい等）
- シャワー・お風呂の利用
- まずは安全が確保されるところで眠り、この先のことを考えていくための時間
- 生活に必要な情報、物品・食品を提供
- 何かあったときに帰ってこられる場所になる



■建設に必要な予算 10 億円

内訳：土地購入費 6 億円、建物建設費 3 億 5000 万円、
設備備品費 4000 万円、その他経費・手数料等 1000 万円

■スケジュール

2025 年 秋	寄付キャンペーンスタート：目標 2.5 億円 ×4 年間＝10 億円
冬	全国キャラバン計画・実施
2026 年	寄付キャンペーン 2 年目
2027 年	寄付キャンペーン 3 年目。土地購入。 建物設計計画の具体化、業者との契約等。
2028 年	寄付キャンペーン 4 年目。建設後の運営計画を具体化。
2029 年	着工
2030 年	完成

女性人権センター建設に
向けた説明会等の動画を
こちらからご覧いただけます



https://youtube.com/playlist?list=PL_JVJO2E2hCbP441qW0L5s8g0DXp3wVz2&si=phUzew37oHYEijbP

「女性人権センター」建設をご支援ください

専用口座にて、通常のご寄付とは別に管理します。払込手数料はご負担くださいますようお願いいたします。

ゆうちょ銀行からお振込

- 記号：11310
- 番号：13950251
- 名義：シヤ) コラボ

他行からお振込

- ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）
- 店番：138
- 種目：普通
- 店名：一三八（イチサンハチ）店
- 口座番号：1395025
- 名義：一般社団法人 Colabo

カード決済はこちら



<https://congrant.com/project/colabo/17660>

プロジェクト立ち上げへの想い



性売買のなかにいる少女たちと繋がり、性搾取から抜け出す手助けをし、共に歩む活動をしているColaboは、活動を始めてから15年間、常にデマや誹謗中傷に晒されてきました。妨害がひどくなるのはいつも、当事者たちと性搾取の実態について声をあげたときでした。

行政からは「若年女性支援の枠組みはない」「家に帰れず性売買する少女なんてどこにいるんだ」と言われ続けてきたため、私たちは市民の寄付や民間助成を頼りに、少女たちとつながるアウトリーチやシェルター等の活動を自主的に続けてきました。少女たちと共に公的支援の機能不全や性搾取の実態を訴え、市民の理解と関心が広がっていきました。

2022年、日本で初めての女性支援の根拠法となる女性支援法が成立。私も厚労省の検討会構成員として、少女を取り巻く性売買業者や買春者らの実態、支援の必要性を訴え、「若年女性支援事業」が新法に組み込まれました。いよいよColaboの行ってきた、支援につながる前に危険に取り込まれている少女たちを探し、出会い、つながり、生活を支えていく活動が全国各地に広がりはじめるというタイミングで、Colaboに対する「会計不正」等のデマが拡散され、誹謗中傷の煽動にミソジニーを内面化している人たちや、性売買業者とつながる政治家たちが加担しました。妨害を受け、国の女性支援法の基本計画からは、「性売買」という言葉が削除されました。一方で、加害者は「Colaboと戦う」名目で2億円以上のカンパを集めたり、選挙に出馬し当選した者たちもいます。

私たちは、活動現場への直接的な妨害を含めた無数の暴力にさらされることになり、それを理由に東京都と新宿区はColaboに活動中止を求め、バスカフェを歌舞伎町から追い出しました。その後、東京都がColaboに代わり事業を委託した団体では、施設内での性暴力や性売買への斡旋、職員が相談者に薬物を勧めるなどの事件が相次いでいます。女性差別の思想に基づき、少女を弱いものとして扱い、搾取や暴力を生み出す男社会の構造を温存しながら女性支援を名乗る団体が急増し、若年女性支援は衰退しています。

今後も、性搾取に抗い、女性差別に反対する活動を続け、声をあげることをやめない限り、このような暴力は止まないでしょう。

Colaboの活動に連帯し、支えてくださる方の多くは、長年女性差別に抗ってきた女性の先輩方です。みなさんからのたくさんの励ましと連帯にこれまで支えられてきましたが、高齢の方も多く、この先5年、10年、20年と時間が過ぎたとき、40代、50代になった私は、日本の女性差別の現状にどう抗って行けばよいのか、不安でいっぱいです。

そこで、「女性人権センター」を建設し、男社会からの嫌がらせや暴力に屈せず、追い出されることのない女たちの活動拠点を作りたいと考えました。世代を超えて女性たちがつながり、差別に抗う、「闘う」女性たちの連帯がうまれる場所にしたいです。女性たちの力で、女性たちのゆるがない拠点をつくりたいです。応援よろしくお願いします。



一般社団法人Colabo
代表理事 仁藤夢乃